

2022年10月期 第3四半期 IRミーティング資料

2022年9月16日

 **クマイ化学工業株式会社**

2022年10月期 第3四半期実績

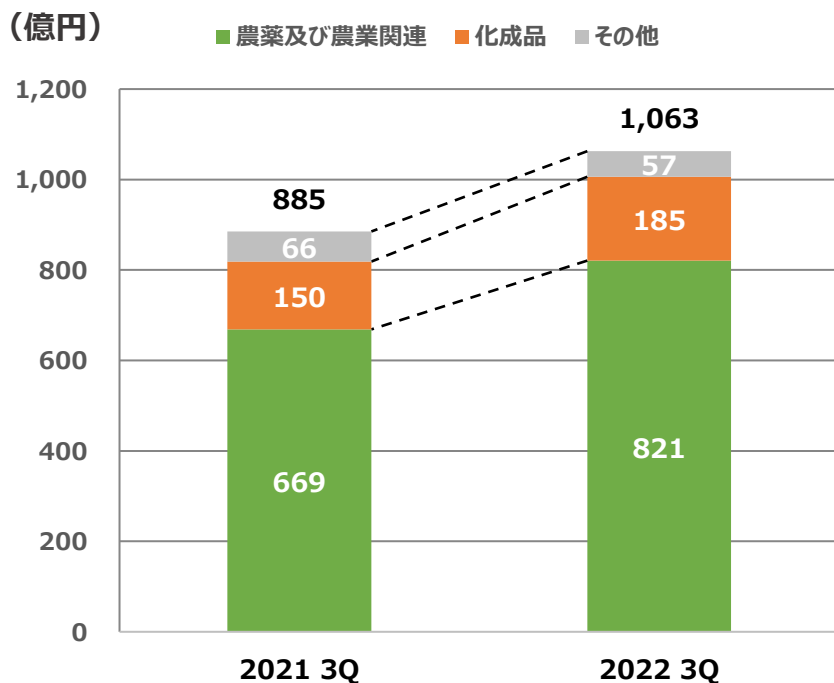
(億円)	2021 3Q 実績	2022 3Q 実績	前年比	増減要因
売上高	885	1,063	+178	<ul style="list-style-type: none"> ・数量増 (+) ・価格転嫁 (+) ・為替影響 (+)
農薬及び農業関連	669	821	+153	<ul style="list-style-type: none"> ・アクシーブ剤の数量増(+)
化成品	150	185	+35	<ul style="list-style-type: none"> ・塩素化事業の回復、精密化学品事業の数量増(+)
営業利益	69	103	+35	<ul style="list-style-type: none"> ・数量効果(+) ・原材料費の高騰(-)
経常利益	90	162	+71	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差益等(+)
四半期純利益 *1	63	111	+47	

2022 3Q 実績レート： ¥/\$ = 124.9
¥/€ = 133.3

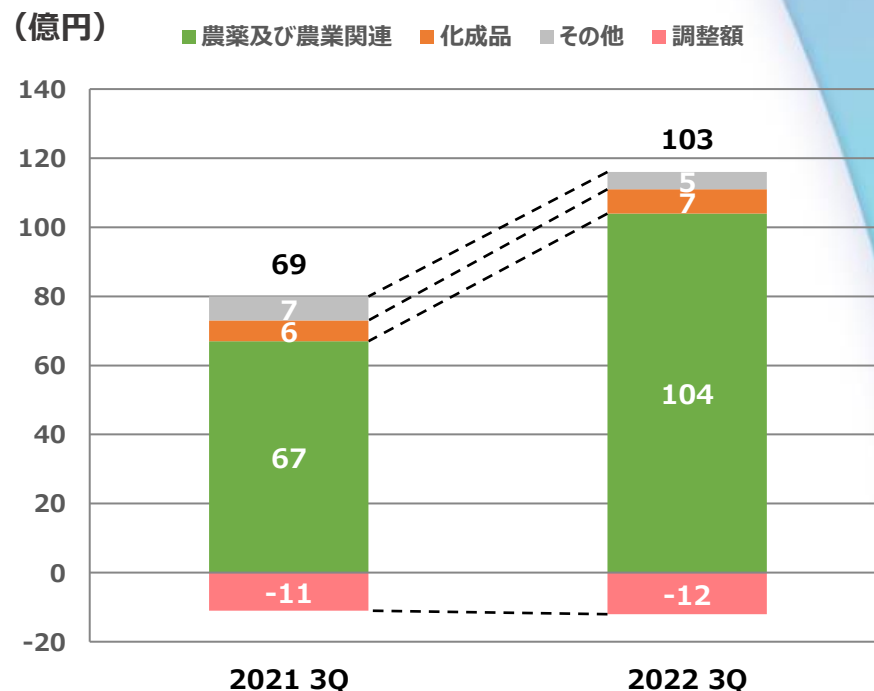
*1親会社株主に帰属する四半期純利益

セグメント別売上高及び営業利益

連結売上高



連結営業利益

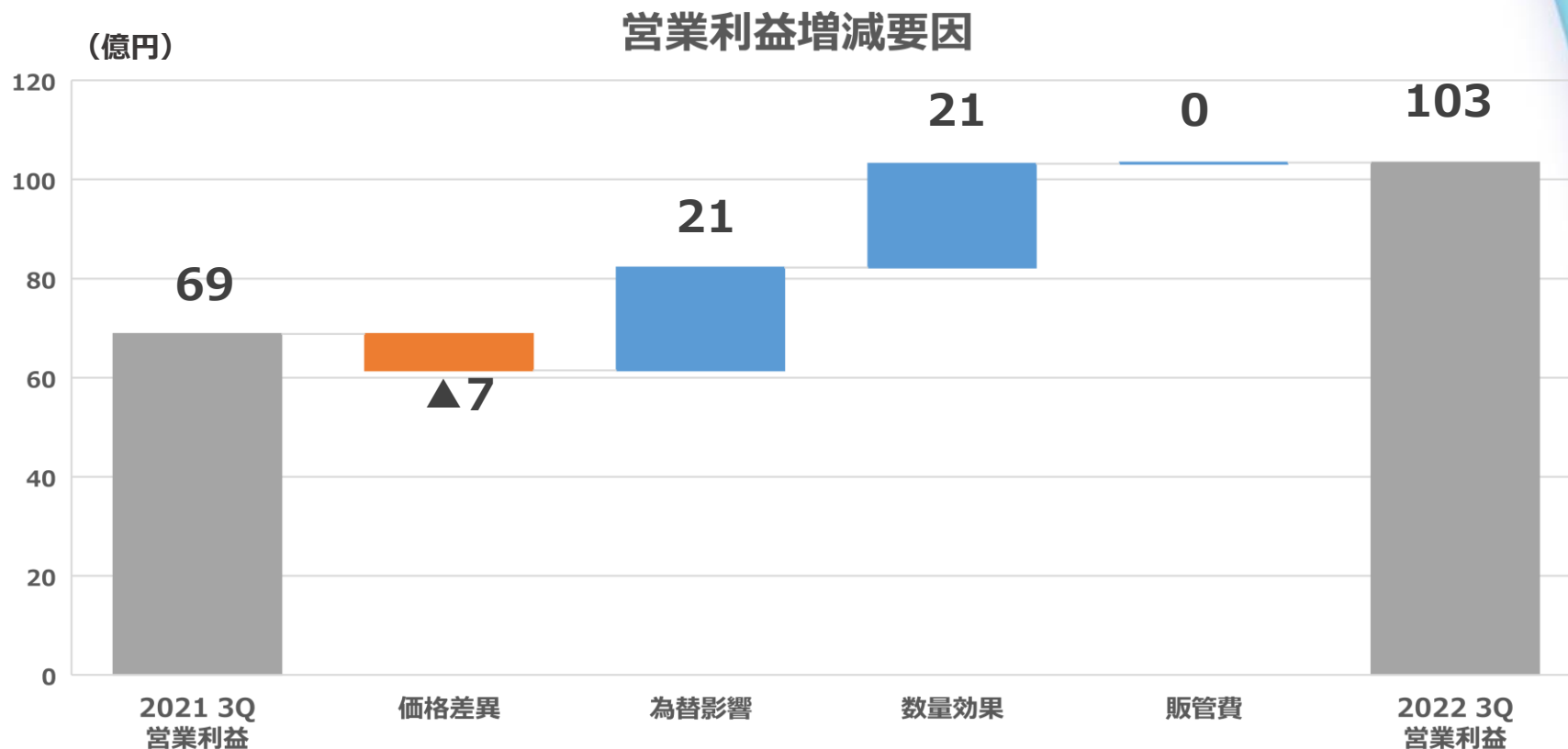


	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	+ 153億円	+ 37億円
化成品	+ 35億円	+ 1億円
その他	- 10億円	- 2億円

営業利益増減分析

増減要因

- ✓ 農薬及び農業関連、化成品共に好調な出荷による大幅な増益
- ✓ 原材料高騰の影響が価格転嫁を上回る形で推移したものの、為替影響、数量効果により増益



農薬及び農業関連事業

第3四半期の進捗

国内

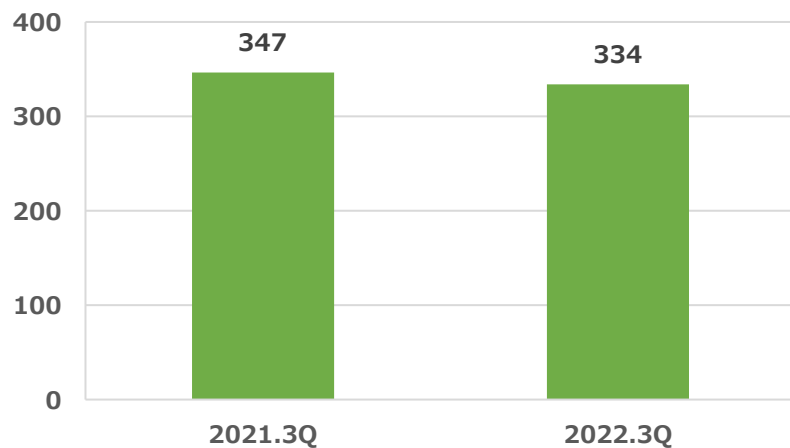
エフィーダ剤、ディザルタ剤を含む水稻箱処理剤が順調に推移するも一部他社導入剤の終売等により若干の減収

海外

良好な事業環境を背景にアクシーブの主要販売国で好調な出荷
原材料高騰に伴う価格転嫁、円安進行により増収幅を押し上げ

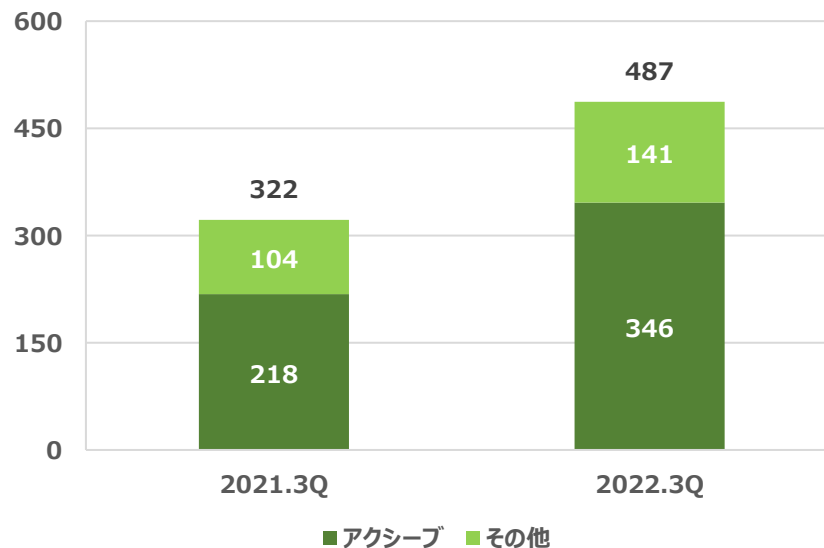
(億円)

国内売上高



(億円)

海外売上高



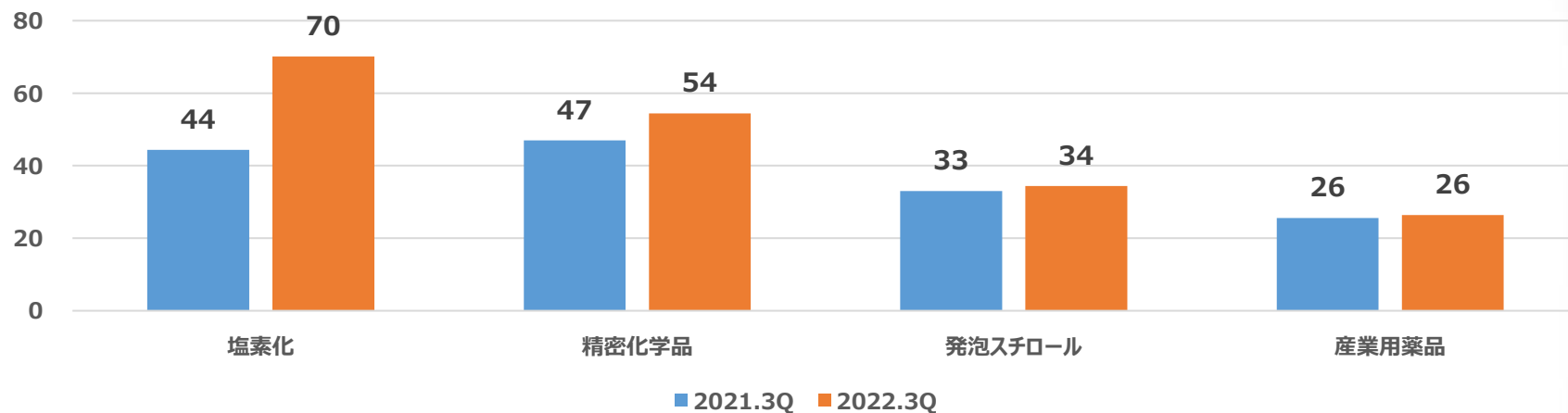
化成品事業

第3四半期の進捗

塩素化	コロナ禍影響からの回復 クロロキシレン類、クロロトルエン類ともに好調に推移
精密化学品	ビスマレイミド類が順調に推移
発泡スチロール	前年並みで推移
産業用薬品	

小セグメント別売上高推移

(億円)



2022年10月期第3四半期 総括

▶ 事業全体（増収増益）

- ✓ 事業全体として前年を上振れて推移
- ✓ 原材料費高騰の影響があるものの、出荷数量増でカバー
- ✓ 海外向け事業では円安進行による増収幅の押し上げ

▶ 農薬及び農業関連事業（増収増益）

- ✓ 国内はエフィーダ剤、ディザルタ剤が順調に推移
- ✓ 海外はアクシーブ剤が高い需要により好調に推移

▶ 化成品事業（増収増益）

- ✓ 塩素化事業はコロナ禍影響から回復進む
- ✓ 精密化学品事業はビスマレイミド類が順調に推移

▶ その他事業（減収減益）

- ✓ 建設土木事業の工事進捗状況の影響で低調な推移

2022年10月期 連結業績予想



	2021 実績	2022 修正予想*2	増減	増減要因
売上高	1,182	1,400	+218	—
農薬及び農業関連	892	1,068	+177	海外：アクシーブ大幅増収（+） 国内：エフィーダ、ディザルタ増収（+）
化成品	207	243	+36	・コロナ禍からの回復による増収（+）
営業利益	85	125	+40	・数量効果（+） ・為替影響（+） ・調達価格上昇による原価高（-）
経常利益	128	164	+36	・為替差益（+）
当期純利益*1	90	115	+25	—

※2022年業績予想における使用レート : ¥/\$ = 上半期実績117.4、下半期想定128.0
¥/€ = 上半期実績130.1、下半期想定¥130.0

*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22022年6月7日に業績予想の上方修正を開示

農薬業界と 当社のビジネス構造について

農薬とは



1種類のみのもので原体が入った農薬を**単剤**、
機能性を高めるために2種類以上の原体が入った農薬を**混合剤**という

農薬業界の特徴

国内外の農薬メーカーは多種多様な雑草・病害虫を防除するため
他社から原体を導入し製品開発をするとともに
自社原体を他社に導出し収益の最大化を図っている



全農

※バイエルとの共同開発剤

クミアイ化学

住友化学

オキサジクロメホン・フェンキトリオン・プロピリスルフロンのプロモブチド粒剤

成分	オキサジクロメホン (PRTR・1種) ... 0.80%	プロピリスルフロンのプロモブチド	0.90%
	[3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン]	[1-(2-クロロ-6-プロピルイミダゾ[1,2-b]ピリダジン-3-イル)スルホニル]-3-(4,6-ジメチルピピリジン-2-イル)尿素]	
	フェンキトリオン	プロモブチド	9.0%
	[2-[8-クロロ-3,4-ジヒドロ-4-(4-メチルフェニル)-3-オキソキノキサリン-2-イル)カルボニル]シクロヘキサン-1,3-ジオン]	[(RS)-2-プロモ-N-(α,α -ジメチルベンジル)-3,3-ジメチルブチルアミド]	
	鉱物質微粉等		86.3%

性状 淡褐色細粒

最新の登録内容

成分表拡大図

競合であるとともにパートナーとして互いに協力



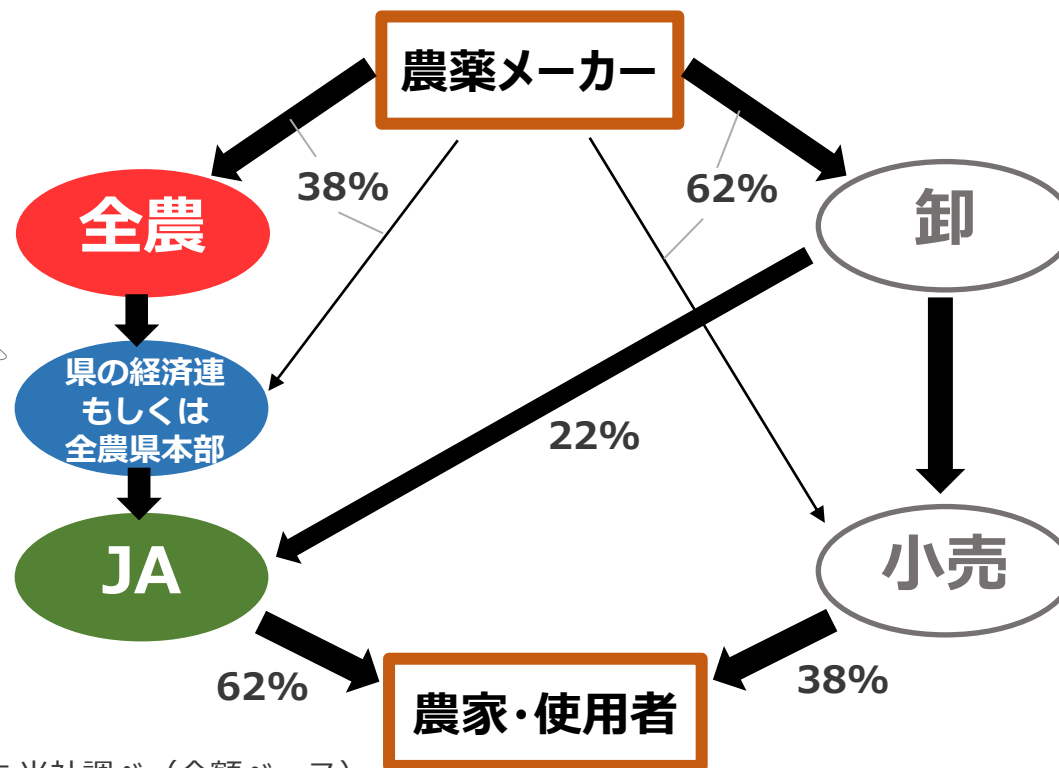
当社の農薬事業（国内／農耕地用）

販売
ルート

製剤化し付加価値を高めた最終製品をJAグループに販売

事業の
季節性

日本の作付時期に合わせて出荷するため
 例年4月ころまでに大部分の販売が完了する



製品をJAグループに
販売する
系統ルート



商系ルート

当社の農薬事業（国内／農耕地用）

国内 営業拠点

各支店に属する計120名以上の
販売員・普及員を全国に配置し（沖縄を除く）
各地域で農家やJAと密接な関係を築いている

豆つぶ剤実演の様子→



↓ 圃場巡回の様子



当社の農薬事業（海外）

販売 ルート

現地の販社が持つ強力な販路を通じて拡販を図る
製品よりも原体を多く販売している

事業の 季節性

世界50カ国以上で一年を通して販売

海外売上 比率

2021年度実績：55%（農薬及び農業関連事業における海外比率）
アクシーブの成長とともに海外比率は増加傾向



アクシーブ原体は販社にて単剤や混合剤に製剤化される

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



ワミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>